

## 5. 工事中

### (1) 工事中の交通への影響

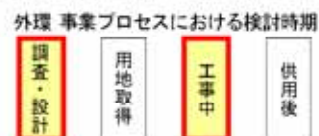
- ① 工事車両による世田谷通りや多摩堤通りの渋滞や、その周辺地域を含めた交通安全性の低下への懸念
- ② 工事期間中の生活道路機能の確保についてへの懸念

○これまでに頂いた意見

- 周辺地域において、工事車両による事故など、日常生活への影響が懸念される。工事車両数が非常に多いので、搬入出は東名高速道路に直行するなど、周辺地域の道路に工事車両が流入しないよう考慮してほしい。
- 分断されてしまう生活道路は工事中も生活道路の機能を確保し、日常生活に支障がないように検討する。

(国)

- 東名ジャンクションに係る工事用車両については、東名高速に直接乗り入れできるようにし、世田谷通りや多摩堤通りなどの地域の一般道を極力利用しない計画とします。また、一般道を利用する場合には、工事用車両の台数、運行ルート、運行時間等について地域のみなさまへ説明するとともに、意見を聴きながら周辺地域への影響が小さくなるよう努めます。
- 工事中に分断が生じる道路については、切り回し道路の設置等により必要な機能を工事前までに確保します。また、切り回し等の対策の具体化にあたっては、地域のみなさまの意見を聴きながら対応します。



(2) 工事中の環境への影響

- ① 工事に伴う騒音・振動、粉塵による環境への影響についての懸念
- ② 工事に伴う大気質、地下水、土壌への影響についての懸念
- ③ 工事で発生した土が汚染されていた場合、その処理についての懸念

○これまでに頂いた意見

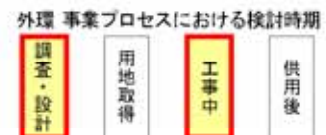
- 工事車両の停車時のアイドリングによる排気ガスを懸念しており、対策を講じて欲しい。
- 工事中・供用後のモニタリングを徹底し、何らかの影響が出た時にすばやく対応が取れるように、また、住民に情報提供・情報開示されることで住民の不安に応える。
- 掘り出される土が土壌汚染されている可能性もあり、残土の処理方法を示してほしい。

(国)

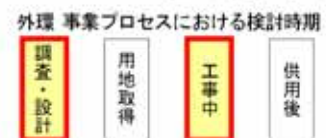
➤ 環境への影響については、環境影響評価法に基づき、事業特性や地域特性を勘案のうえ、環境影響評価を適切に実施し、工事の実施における建設機械の稼働及び工事用車両の走行に係る大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉塵等）、騒音、振動について予測・評価した結果、整合を図るべき基準等を達成すると考えています。

➤ 工事の実施にあたっては、環境保全措置として、工事施工ヤードの仮囲いの実施、排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械を使用することなどにより、さらに環境負荷の低減を図ります。

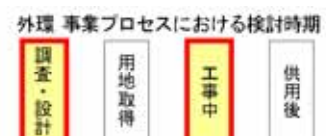
➤ 工事中の地下水位については、施工方法や工事内容に応じたモニタリング方法について関係機関等との協議を十分に行い、周辺の地下水利用状況も考慮した上で実施し結果について公表します。



➤ 土壌については、あらかじめ情報収集を行い土壌汚染が存在する又はおそれのある土地の存在が判明した場合には、サンプリングによる土壌の汚染状況について調査を実施し土壌汚染が明らかになった場合には、最新の知見及び今後の技術開発の動向を踏まえ、適切な対策方法を検討し、法令に基づき適正に処理・処分を行います。



➤ 工事の実施にあたっては、関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた工事計画とするとともに、地域の住民のみなさまに対しては、工事の内容、方法、期間などについて周知を徹底します。



参考: 工事中の環境への影響について

工事中に実施する主な環境保全措置

工事に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動、地下水などへの影響保全措置を実施します。

また、工事実施に伴う作業計画の作成にあたっては、各関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた計画とします。

工事中に実施する主な環境保全措置は以下のとおりです。

環境保全措置の内容	環境保全措置の効果
工事中の散水、タイヤ洗浄、施工ヤードに仮囲いの設置	工事中の散水、タイヤ洗浄、仮囲いの設置をすることによる粉じん等の発生又は拡散を低減します。
防音パネルの設置	工事敷地境界に防音パネルを設置し、騒音の影響を低減します。
排出ガス対策型、低騒音型、低振動型の建設機械の採用	二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
作業方法の改善	アイドリングストップの励行、高負荷運転の抑制等により二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
工事用車両の高速道路への誘導及び分散通行	工事用車両については、高速道路に直接乗り入れできるようにし、地域の一般道を極力利用しないことにより、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動の発生を低減します。
地下水流動保全工法の採用	工事実施時から地下水流動保全工法を実施し、地下水位の保全に努めます。
建設副産物の再資源化・再利用化	建設発生土は再利用に努め、建設汚泥についてもできる限り再利用し、それ以外は適正に処理・処分します。コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は再資源化を図ります。

アイドリングストップの励行



排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械の採用



タイヤ洗浄



(3) 工事中の安全性

- ① 工事における子供の安全への懸念
- ② 工事における地域の風紀悪化への懸念

○これまでに頂いた意見

- 工事中の子ども達の安全性を確保できるように、スクールゾーンへの工事車両の通行規制などを行ってほしい。
- 防犯対策などの日常生活に関わる問題については、影響の大きい近隣住民の意見を積極的に聞いて対策案に取り入れる。地元住民でなければわからない問題点を把握し、的確な対応ができるようにすることが重要。

(国)

- 工事の実施にあたっては、作業員等の指導・教育の徹底を図るとともに、工事区域を明確化し、通学路等を含めた道路の交通安全対策としてガードフェンス、バリケード等で囲うとともに、工事用車両出入口付近には誘導員を配置するなど、交通安全や円滑な交通の確保に努めます。
- 工事区域内における風紀悪化が生じないよう、工事現場周辺のイメージアップを図るなどの対策を実施するとともに、世田谷区とも連携し安全・安心の対策に取り組んでまいります。

